様々な体験を楽しみながら
大自然を満喫！

あすけだより

特集　大多賀町　互いの森PARK

キャンプやサウナ、魚釣りなど様々な体験ができる「互いの森PARK」は
幅広い世代で楽しむことができるアウトドア施設です。
土谷さんご夫婦は豊田市に移住し、互いの森で働いています。
そこで今回は、土谷さんご夫婦を特集。

3・4月号
2026年
No.220

大多賀地区にオープンした『互いの森 PARK』

大多賀地区の『互いの森 PARK』（以下互いの森）を特集します。マス釣り場『山の里たんぽぽ』をリニューアルして昨年８月にオープンしました。名古屋市を拠点とする一般社団法人日本福祉協議機構が運営しています。地域の活性化と福祉の推進を目的とし、自然と人、山村と障がい者が「互いに生きる」新しい形の施設です。

今回は、互いの森で働いている土谷光治（こうじ）さん、真弓（まゆみ）さんご夫妻にお話を伺いました。

土谷さんご夫妻は、こちらで働くまでは、フランスで１６年程暮らしていました。帰国後、仕事を探していて、たまたま日本福祉協議機構で互いの森をオープンする計画を聞いたそうです。田舎で暮らしたいという思いがあったのと、互いの森のコンセプトに惹かれて、大多賀で働くことになりました。お住まいは、空き家バンクでみつけた旭地区の家で暮らしているそうです。足助地区でも探しましたが、条件の合う物件が見つからなかったということでした。

互いの森の詳細情報は
ホームページから

お話を伺った土谷光治さん（右）と
真弓さん（左）

互いの森はこんなところ

互いの森は、寧比曽岳（ねびそだけ）の大多賀峠登山口近くに位置し、山の中の大自然あふれる施設です。釣り堀、泳げる水族館、キャンプ、グランピング、バーベキュー、水上に浮かぶサウナ、釣った魚をその場で味わうことができる地元食材を使った食のスポット、木工などの各種ワークショップが楽しめます。

光治さんは、「お客さんにサウナの薪割りをやってもらうとか、畑づくり、冬は焚き火で暖を取るなど、都会ではなかなかできないことを体験してもらえる施設です」と紹介してくださいました。

真弓さんは「夏は涼しいし空気も美味しいです。冬は寒くて、自然の厳しさをちょっと甘く見ていました。でも、美しさもたくさんあって、ほんとに四季の変化が肌で感じられます」と話してくださいました。

グランピングエリア

水上に浮かぶサウナ

担当している仕事

真弓さんは、釣り堀、キャンプ、デイキャンプなど、受付全般と、お客様対応を担当しています。障がいを持つ方も一緒に働いているので、生活支援員として相談を受けたり、話を聞いたりすることもやっています。
光治さんは、キッチンの厨房を担当しています。餌に柚子を加えて育てた『ゆずマス』の料理が美味しくておススメだそうです。

食のスポット　フォークテイルキッチン

ゆずマス３種盛り定食（刺身、フライ、塩焼き）

互いの森の魅力

「1 番の魅力は自然ですね。家族で楽しめるし、ペット連れでも楽しめます。釣り堀はお子さんたちがすごく楽しんでくれていて、両親に『もう帰るよって』と言われても『もっとやりたい』と言うほど人気です」と話してくださったのは真弓さん。釣り堀の隣は、泳げる水族館になっていて、水遊びもできるので、家族で楽しんでもらえると良いそうです。光治さんによると、今後施設が増える予定だそうですので、更に魅力が広がりそうです。

今後、挑戦してみたいこと

真弓さんは、今まで福祉関係の仕事はしてこなかったので、ちゃんと福祉の勉強をしないといけないなと日々思っているそうです。また、動物と一緒に遊べるスペースもあったらいいなと考えているそうです。
光治さんは、互いの森の畑で育てた野菜や、池で育てたマスを料理に使って、自給自足に取り組んでみたいとのことです。経験がないので、地元の人と繋がりながらやっていきたいそうです。

釣り堀とフォークテイルキッチンの外観

取材動画公開中！！
市の HP の掲載リンクから、取材動画をご視聴いただけます。ぜひご覧ください！

↓こちらから

取材日は、１月中旬の雪が残る日となりました。広い敷地を散策しながら写真撮影させてもらいましたが、キーンと冷えた空気が心地よかったです。広い敷地に展開される新たな施設が楽しみです。今度、『ゆずマス』を味わいに行きたいと思います。（あすけだより編集委員　髙木伸泰）

あすけ⊛羅針盤

あすけ⊛羅針盤は、足助地域会議委員が足助の魅力や地域の皆さんの元気な活動をお届けします。
令和７年度わくわく事業団体のうち４団体の活動内容を紹介します。

わくわく事業紹介　参州足助寿ゞ家界隈芸術祭実行委員会（代表：加藤　悟）

参州足助寿ゞ家界隈芸術祭(申請回数：１回目)

・足助の町並みの旧料亭「寿ゞ家」。廃墟状態から再生中のこの建物を中心とした界隈で、３年に１度定期的に芸術祭を開催し、町並みから新たな文化の発信や地域内外の交流促進を図ります。
・第１回目となる今年度は、12 月 13 日～21 日の９日間で開催しました。昼間のアート展には、500人超の来場者を迎え、夜間に寿ゞ家で開催した交流・文化探求プログラムには、延べ約150人の参加がありました。次年度は図録により芸術祭を再現し、さらに情報発信を図る予定です。

マンリン小路の展示
（「いつか来た道）かとうさとる）

寿ゞ家本館の展示
（「足助の町並み屏風絵」からさわてるふみ）

タウンミーティング
「本と本屋と地域の力」の様子

わくわく事業紹介　麺の会（代表：河合　徳人）

「竹灯り」による足助の活性化と担い手育成（申請回数：２回目）

・今年度は、新たな取り組みとしてレーザーによるもみじのイルミネーションや、モニターを設置してイベントの案内をすることにより、多くの人たちに見て喜んでいただけたと思っています。
・今後も竹灯りによるイベント開催で香嵐渓だけでなく足助に興味を持って足を運んでもらえるといいなと思いますし、担い手を育成して足助の活性化につながればよいと思っています。

会場準備の様子

竹灯りの準備の様子

竹灯りの香積寺

わくわく事業紹介

豊田建築家協会（代表：水野　茂朋）

足助　浦辺鎮太郎　建築祭（申請回数：１回目）

・三州足助屋敷、あすけ楓門、足助交流館、参州楼、足助トレーニングセンター、百年草など足助に多くの建築作品を残した建築家「浦辺鎮太郎」。２月には、飯盛座で「建築家 浦辺鎮太郎と足助のまちづくり」シンポジウムを開催しました。
・建築の歴史が専門で 2020 年「浦辺鎮太郎建築展」実行委員長を務められ、また TV をはじめ様々なメディアにも出演される松隈先生をお招きし詳しいお話をしていただきました。
・また、足助と同じく歴史ある街（常滑、有松）で活動する建築家（水野太史氏、浅野翔氏）もお招きし共に「まちづくり」を考えました。

シンポジウムの登壇者（左から松隈 洋氏、水野 太史氏、浅野 翔氏）

わくわく事業紹介

山の音を観る会（代表：鳥居　智子）

観音山整備事業（申請回数：１回目）

・荒廃している観音山（足助町）を清掃・草刈り等により整備し、「第二の香嵐渓」として四季を楽しめる身近な観光・交流スポットとして再生する活動です。令和７年度は、毎月第３土曜日に有志が集まり整備活動を継続的に行っています。
・整備が進み、足助の町並みとモミジのコラボレーションが楽しめる観音山になってきました。
・今後も景観改善と交流創出を通じ、魅力向上と持続的な地域活動の基盤づくりを目指します。

整備の様子

整備終了後の集合写真

秋の観音山からの展望

社協だより ～そうだ！まめだ館（社協足助支所）へいこまい～

ボランティアグループ紹介　足助子育てネットワークグループ

「こどもはこどもの中で元気に育ってほしい！」という代表者の思いで、月１回水曜日の 10 時からまめだ館等で未就園児の親子同士の交流の場『めだかの学校』を開催しています。手遊びや読み聞かせ、季節行事も催され地域の高齢者（デイサービス等）との交流も行っています。

めだかの学校
～活動の様子～

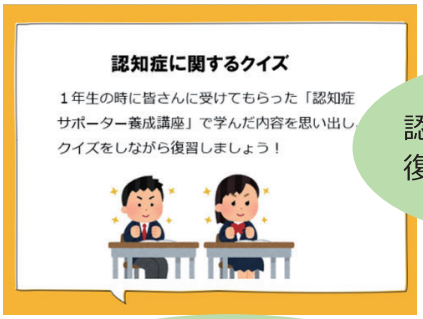
随時、参加できる親子さんを**募集**しています！
詳細は社会福祉協議会足助支所（62-1857）へお気軽に問い合わせください。

こんにちは！足助包括です！

令和７年 12 月 15 日、認知症サポーターステップアップ講座を足助中学校２年生対象に開催しました！１年生の時には既に認知症サポーター養成講座を受講していただいています。

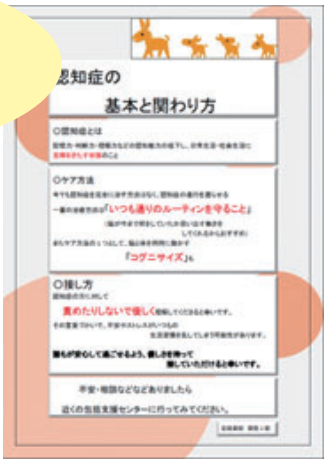
ステップアップ講座では、認知症に関する理解をより深めてもらうこととサポーターとして自分たちにできることを考えてもらうことをねらいとしました。

認知症への関心をもつことにより、地域のために何かしたいという思いをもってもらうきっかけになれば嬉しいです。



認知症クイズで
復習しました！

足助中学校出身の
先輩サポーターが作成した
チラシを紹介しました！



認知症の人にとって
安心できることをテーマに
グループワークをしました！

問い合わせ先：足助地域包括支援センター（足助病院内）62-0683

足助警察署からのおしらせ

非行の芽　はやめにつもう　みな我が子
～地域ぐるみで有害な環境をなくしましょう～

春休みから新学期にかけての時期は、進級、進学、就職等、少年たちの生活環境が大きく変わる時期です。また、少年たちの生活リズム、行動範囲、交友関係等が変わりやすい時期でもあります。

少年たちを非行や犯罪被害から守るために日頃から親子でコミュニケーションをとることが大切です。

親子で話をする機会を増やしお子さんの行動に変化があった場合は、すぐに気づけるような関係をつくっておきましょう。

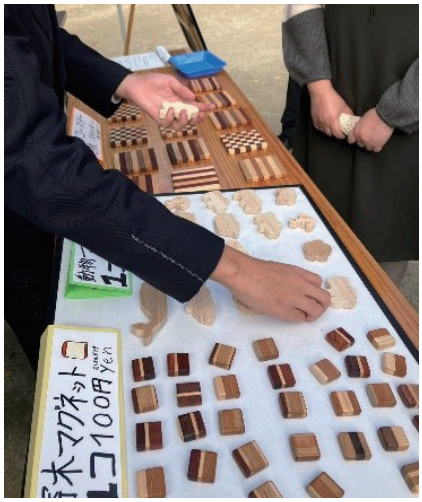
ひとつの電話で、変わる未来があります。
・少年自身の悩みごとや困りごと
・保護者からの少年に関する相談など

ヤングテレホン電話 052-764-1611 へ。
受付時間　月～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前 9 時から午後 5 時まで

『香嵐渓 100 年プロジェクト』を知っていますか？

【活動紹介その３】もみじ基金

もみじまつり期間中に、足助中学校 3 年生のみなさんが『キツネノカミソリの球根』を販売、EF 学級（特別支援学級）のみなさんが『手作りの寄木細工マグネット』などを販売し、その売上金をもみじ基金に寄付してくれました。



２月の植樹式では、企業様からの寄付も含めて、合計 7 本のモミジの成木を植樹しました。

もみじ基金へのご協力ありがとうございました。

<おしらせ> ３月中旬頃からは、カタクリの花が見頃です。ぜひ、香嵐渓にお越しください！

足助とつながる情報紙「あすけだより」読者・テーマ大募集!!

読者登録の申込みをしていただくと、登録された送付先（足助地区外に住む方）に、あすけだより（年６回）を無料でお届けします。

あすけだよりは、進学や就職のために足助を離れて暮らすことになった方に、ふるさと足助とのつながりを持ち続けて欲しいとの思いで発行しています。是非、読者登録をお願いします！

読者登録はこちら

また、あすけだよりでは特集テーマも募集しています。
取材依頼をご希望の方は、足助支所までご連絡ください！

【問合せ】豊田市役所　足助支所　地域振興担当
電話 62-0601／E-mail：asuke-shisho@city.toyota.aichi.jp

足助の名スポット紹介　平家一門衆ゆかりの久木城

平家一門衆として活躍した原田種直（たねなお）ゆかりの久木城。（写真中央の山）

原田種直の妻は平清盛の長男重盛の養女とされ、太宰府における平氏政権の代行者となり、重要な役割を担っていた人物です。

主郭には城主の墓碑があり、曲輪跡や堀切、竪堀などの遺構を確認することができます。

2025 年 12 月に地元の有志によって「久木城跡を守る会」が立ち上がりました。整備活動を行い、後世に歴史を紡いでいくとのことで、今後の活動が楽しみです。

Googleマップ

（あすけだより編集委員　鈴木悠太）

いつもお読みいただきありがとうございます。今後もよりよい支所だよりをお届けするため、ご意見・ご感想・ご要望などいただければ幸いです。以下の連絡先へお気軽にご連絡ください。

WE LOVE あすけ

人口と世帯数（令和８年２月１日現在）
人口　6,549 人　世帯数　2,744 世帯
令和７年度合計　出生６人　死亡 97 人

発行：豊田市役所足助支所　〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2
電話：市民生活担当 ☎62-0600　地域振興担当 ☎62-0601
FAX 62-0606 ✉asuke-shisho@city.toyota.aichi.jp